

第120回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは5月17日(火)、減災館1階減災ホールにおいて、第120回防災アカデミーを開催しました。

今回は、清水建設株式会社技術研究所安全安心技術センター長である金子美香氏による講演「地震による家具転倒被害とその対策」が行われ、約120名の参加がありました。金子氏は、地震時の家具の転倒一筋に研究してこられたそ



講演する金子氏

の道の第一人者です。

金子氏によれば、近年発生した地震の負傷理由の第一位は家具の転倒・落下によるとのことです。ガラスの散乱に繋がれば地震後の避難にも大きな支障をきたし、火災に繋がれば生活の継続すら困難になります。見せられた振動実験の映像から、家具を止めていない部屋では、地震の際に負傷どころか命の危険もあることがよく分かりました。地震対策はまず家具の固定から！出席者一同肝に命じました。

第121回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは6月3日(金)、減災館1階減災ホールにおいて、第121回防災アカデミーを開催しました。

今回は、井口正人京都大学防災研究所火山活動研究センター教授による講演「現代の視点で考える桜島大正噴火」が行われ、65名の参加がありました。井口氏は35年間桜島の観測を続けてこられた、いわば桜島のホームドクター



講演する井口氏

で、現在火山学会会長を勤めています。

1914(大正3)年に発生した桜島の大正噴火は、20世紀以降では我が国最大規模の噴火でした。その割に人的被害が少なかったのは人々が噴火の前兆におそれるをなして避難したことによるということです。東桜島小学校の「桜島爆発記念碑」には、「爆発は古来より続くもので今後も免れることはできない。異変を感じた時は未然に避難し、平常時から災害に遭っても路頭に迷うことがないように覚悟しておくべきである」というメッセージが刻まれています。自然災害の多い日本では、我々すべてが心すべき言葉であると感じました。